

副町長就任あいさつ

10月1日付で、2名の新しい副町長が就任しました。
前副町長の辞任に伴い空席となっていましたが、さまざまな復興関連事業を速やかに進めるため、2名体制で町長のサポートにあたります。



浪江町 副町長 宮口 勝美

先の9月定例議会において議会の同意をいただき、副町長に就任いたしました。今年の3月まで町職員として復興に携わっていたこともあり、震災から4年8か月を迎えようとしている今、平成29年3月の帰町開始を目標に進めている町内の復旧・復興の動きを止めることはできない。行政の停滞を招いてはならないという思いでお引き受けしました。

行政経験が長いとはいえ、職員とは全く違う立場になるわけで不安がないわけではありませんが、心を新たに浪江町の復旧・復興に向け微力ではありますが取り組んでいきたいと決意を新たにしたところです。

就任後、あらためて各担当課から「現状と課題」について説明を受けました。

順調に進みつつある施策がある一方で、課題山積でなかなか進められない施策もあります。

時間の経過とともに、住民の皆様の要望も多岐にわたり限られた職員では対応できなくなっているのも事実です。

国・県との対応、避難先自治体との関係など様々な制約がある中ではありますが一つひとつ確実に課題の解決に向け努力していくしか方法はありません。特効薬はないのです。

一緒に就任した本間副町長とスクラムを組み、町長の補助機関としての役割を自覚し、職員とともにそれら課題解決のため邁進してまいりますので皆様方のお力添えをぜひともお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



浪江町 副町長 本間 茂行

10月1日付けで副町長に就任をした本間茂行と申します。

県の新任職員時代の3年間、相双地域で勤務をしており、私にとって相双は社会人としての一步を踏み出した思い入れの深い地域として大変印象深い土地であります。その中でも浪江は、美しい海、山、川といった豊かな自然、奥深い歴史が育んだ史跡や数多くの文化財、多岐にわたる特産品など、多くの地域資源に恵まれた町として魅力を感じておりました。

そのような中、大震災と原子力災害により、豊かで魅力ある浪江町から、全ての町民の皆様が避難を余儀なくされ、4年8か月を迎えようとしていること、本当に残念であり、心苦しく思っております。

しかしながら、厳しい状況にあっても、町民の皆様には、町内の見回りを始め、お祭りや伝統芸能の復活、農業の再開、スポーツ大会などを通じた町民同士の交流、なみえ焼そばといった地域の宝の県内外への発信など、町の再生に向かって、一步一步しっかりと歩みを進められており、深く敬意を表します。

私も、これまで別の組織での業務を通じて福島県の復興に携わってまいりましたが、このたび縁あって浪江町職員の一員となりましたので、町民の皆様と共に全力で町の復興に取り組んでまいります。

浪江町には、生活インフラの整備や商工業の再生など様々な復興への課題が山積をしておりますが、町民の皆様の思いを丁寧にお伺いしながら、職員一丸となって誇りある「ふるさと浪江」のために精一杯、力を尽くしてまいりますので、よろしくお願いいたします。